

# 西の湖に放流されたニゴロブナの産卵期の接岸状況

片岡 佳孝

## 1. 目的

ニゴロブナ資源の維持と増大のためには、天然再生産が必要である。放流種苗においても漁獲されずに生き残った個体が再生産に関与していくことが望ましい。

近年、ニゴロブナの種苗放流は、水田育成種苗の比率が高くなってきており、この手法の効果や特性について把握することが必要である。

水産試験場では、平成 24 年度と平成 25 年度にそれぞれ近江八幡市常楽寺の水田で育成され西の湖に流入する農業用水路に放流されたニゴロブナ（以下常楽寺由来魚という）を対象に放流後の分散およびそれらの再生産への関与について調査を行ってきた。過年度までに常楽寺由来魚は西の湖を通じて琵琶湖に広く分散し、雌雄ともに主に 2 歳（一部の雄は 1 歳）で成熟することが確認された。

本年度についても引き続き調査を継続し、データの蓄積を図った。

## 2. 方法

平成 27 年 4 月から 6 月にかけてのニゴロブナの産卵期に琵琶湖沿岸および西の湖周辺の計 9 ヶ所の農業用水路でニゴロブナを採集し、常楽寺放流魚の混獲率を調査した。放流魚の確認は ALC 標識の有無により行った。なお、推定放流尾数は平成 24 年度が 672,000 尾、平成 25 年度は 535,000 尾であり、全放流魚の耳石に ALC 標識が装着された。

## 3. 結果

西の湖周辺（4 ヶ所）と琵琶湖周辺（5 ヶ所）の農業用水路で採集されたニゴロブナは全 461 個体であった（図 1）。うち 116 個体が常楽寺由来魚と確認され、各採集地点の混獲率は次のとおりであった（図 1）。常楽寺（近江八幡市）：95%（79/83）、北之庄（近江八幡市）：

0%（0/10）、浅小井（近江八幡市）：47%（37/79）、山本川（近江八幡市）：0%（0/2）、伊庭内湖（東近江市）：0%（0/62）、北船木（高島市）：0%（0/119）、横江（高島市）：0%（0/4）、海老江（長浜市）：0%（0/91）。なお、カッコ内の数値は、常楽寺由来魚/各地点の採集個体数である。

常楽寺由来魚は、放流場所であった常楽寺の水路および近接した水路（浅小井）において集中して採集される傾向があり、この傾向は平成 26 年度と同様であった。

常楽寺水路で採集されたニゴロブナの全長分布は、平成 26 年度は 2 峰型（1 歳魚と 2 歳魚）を示したが、平成 27 年度は 150mm 以下の個体が採集されず、1 歳以下のモードがなかった。一部の雄が 1 歳で成熟することを考えると平成 26 年度の雄（1 歳）が少数ながら採集されると予想されたが採集されなかった。このことは、平成 26 年度の常楽寺水路では、常楽寺由来魚（平成 24 年度放流魚）が成熟し水路に入ってきているが、水路内での再生産は機能していない可能性が高い。

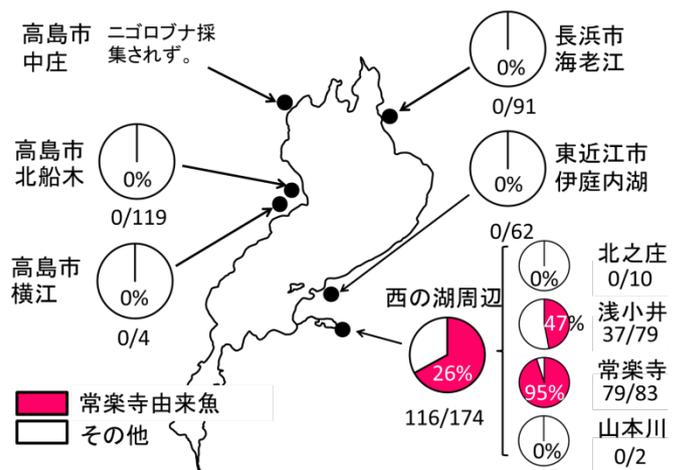


図 1 農業用水路における常楽寺由来魚の混獲率(%)